令和３年度

所　　報

鳥取市教育委員会
鳥取市総合教育センター

は　じ　め　に

平成１９年４月に設置された当センターは、令和３年度で１５年目を迎えました。本年度は、組織改編により、少年愛護センター兼務の教育指導員を加えた児童生徒支援係を編入するとともに、令和２年度に「適応指導教室」から改称した「サポートルーム」の「すなはま」「レインボー」に加えて、南部地域等へ対応するため「かわはら」を新設しました。

新型コロナウイルス感染症に係る対応が継続した令和３年度は、当センターにも大きな影響を及ぼし、所管事業の展開に様々な工夫が必要とされた１年でした。とりわけ、「学校力アップ！教師力アップ！」を通して「研修で学校が変わる！」ことをめざした教職員研修については、学びを止めることのない効果的な方策として、原則オンラインによる遠隔研修としました。研修会場への移動に要する時間を児童生徒の支援にあてられるなど、オンラインのよさを大いに実感しました。また、各研修での事後アンケートをはじめ、本年度開催した全教職員研修のアンケート回答や年間の研修振り返りもオンラインで実施し、迅速に結果集計・分析が行えた利点もありました。これらの実践はコロナ禍収束後にもぜひ活かしたいと考えています。

「ＧＩＧＡスクール構想」の実現に向けた環境整備の面では、電子黒板・緊急時の学習支援用モバイルルーター整備等を進めました。また、４月から１人１台端末の本格運用開始となったことに伴い、ヘルプデスクを設置するとともに効果的なＩＣＴ活用に向けて指導主事派遣研修を行い、一人ひとりの子どもの主体的・対話的で深い学びの実現をめざしているところです。

児童生徒支援においては、「サポートルーム」の運営の他、教育相談活動や生徒指導事案に係る対応を各学校や関係機関と連携を図りながら進めました。係が再編され本センター内に編入されたことにより、指導主事・スクールソーシャルワーカー・教育指導員の情報共有がスムーズに図られ、学校や各関係機関と連携しながら機動的かつ実効的な支援策へとつなげられています。

また、不登校児童生徒等の自立支援をめざした「サポートルーム」では、教育相談や教科学習、ふれあい体験など、魅力ある活動を工夫し、支援の充実を図りました。今後も学校・保護者と連携を図りながら、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて社会的に自立することをめざし、より一層個別のニーズに応じた支援に努めてまいります。

末筆ながら、今年度の総合教育センターの運営に対し、格別の御協力と御支援を賜りました関係者の皆様に厚く御礼申し上げますとともに、今後とも、より一層の御指導・御支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

令和４年３月

鳥取市総合教育センター
所　長　　安田　直人

ー目　次ー

はじめに

Ⅰ　鳥取市総合教育センターの概要

１　設置の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
２　沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
３　組織及び業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

Ⅱ　令和３年度の事業概要

【研修企画係】
１　教職員研修のねらい・実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
２　教師力サポート研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
３　中堅教諭等資質向上研修　企画選択研修の事例・・・・・・・・・　６
４　ＧＩＧＡスクール整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８
５　先輩に学ぶ　講師研修会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
【児童生徒支援係】
６　鳥取市の不登校対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
７　鳥取市のいじめ防止対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
８　サポートルーム「すなはま」「レインボー」「かわはら」の運営
・・・・・１４
９　サポートルーム「すなはま」「レインボー」「かわはら」の相談状況
・・・・・１８
１０　児童生徒交流体験事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０

Ⅰ　鳥取市総合教育センターの概要

１　設置の目的

教育に関する専門的、技術的事項の調査研究、教職員の研修等を行うとともに、不登校等の児童生徒に対する指導及び支援を行い、教育水準の向上及び児童生徒の健全な育成を図る。

（「鳥取市総合教育センターの設置及び管理に関する条例」から）

２　沿革

平成１９年　４月　１日	鳥取市教育センターの設置及び管理に関する条例施行 鳥取市寺町１５０番地に鳥取市教育センター設置
平成１９年　４月２６日	鳥取市教育センター開所式
平成２０年　４月　１日	適応指導教室「けたかレインボー」気高町総合支所３階に移設
平成２８年　４月　１日	「特別支援教育係」を新設、「研修企画係」との２係体制
平成２８年１１月１１日	適応指導教室「けたかレインボー」鹿野町総合支所２階に移設 「レインボー」に名称変更
平成３０年　５月　１日	鳥取市教育センター内に「こども発達支援センター」開設
令和　２年　４月　１日	適応指導教室「すなはま」「レインボー」を サポートルーム「すなはま」「レインボー」に名称変更
令和　２年　４月２７日	「こども発達支援センター」市役所駅南庁舎１階に移設
令和　３年　４月　１日	鳥取市総合教育センターに組織改編 学校教育課から「児童生徒支援係」が加わり、「研修企画係」との２係体制 サポートルーム「かわはら」開設

３　組織及び業務

所長

研修企画係

所長補佐兼研修企画係長１名
主幹２名
主任１名
指導主事３名

- 県教育委員会、他部局との連携
- 教職員研修（基本研修、職務研修、サポート研修等）
- ＧＩＧＡスクール構想事業（環境整備）
- 教育情報の提供（HP、総合教育センターだより）
- 研修用図書、DVD 等の貸出
- 教員用、教育用コンピュータ（更新等の対応）
- 体育館、研修室の管理と運用

児童生徒支援係

児童生徒支援係長１名
主幹１名
主任１名
指導主事兼教育相談員兼
　　教育指導員１名
教育指導員８名
（「レインボー」１名、
　少年愛護センター兼務３名含む）
スクールソーシャルワーカー８名
（統括１名含む）

- 不登校対策
- いじめ防止教育に関すること
- 福祉関係機関との連携
- サポートルーム「すなはま」「レインボー」「かわはら」の運営
- 人権教育の推進
- 児童生徒交流体験事業

Ⅱ　令和３年度の事業概要

【研修企画係】

１　教職員研修のねらい・実績

（１）ねらい

「子どもたちが志をもち、社会へはばたいていくために　ともに学び続ける教師をめざして」を基本方針に掲げ、一人一人の教育的ニーズに対応した教育を基盤にして、「魅力」と「徹底」による学力の向上、豊かなかかわりによる自己有用感の育成を見据えた研修を実施する。

（２）実績（研修体系順）

日時	研修名 （コラボ開催を含む）	内容（講義題等）	講師	人数 （人）
4/20	初任者研修① 新規採用養護教諭研修①	鳥取市教職員としての責務と使命 児童生徒との信頼関係を築くために	鳥取市教育委員会	56 名
5/21 ～8/4 9/2 ～12/16	初任者研修② （２回訪問）	初任者学校訪問 授業参観・初任者との面談・管理職との協議	鳥取市教育委員会	49 名
7/26	初任者研修③ 新規採用養護教諭研修②	教師としての心構え 児童生徒理解と教育実践への意欲づけ	鳥取市教育委員会	49 名
１２月末 まで	初任者研修④	先輩教諭の授業づくりや学級経営に学ぶ	先輩教諭	49 名
5/10	中堅教諭等資質向上研修① ６年目研修①	児童生徒理解に基づくＳＥＬ－８Ｓの実際	島根県立大学 准教授　山田　洋平	遠隔 48 名
6/10	中堅教諭等資質向上研修② １６年目研修①	ＩＣＴを活用した双方向の授業づくり ～イメージを共有しよう　１人１台端末の活用～	放送大学 教授　中川　一史	遠隔 34 名
7/27	中堅教諭等資質向上研修③ ６年目研修②	自己有用感と人間関係づくり	愛媛大学 教授　城戸　茂	遠隔 48 名
12/20	中堅教諭等資質向上研修④ ６年目研修③	自治的な集団づくり	國學院大学 教授　杉田　洋	遠隔 48 名
10/21	中堅教諭等資質向上研修⑤ 人権教育主任研修②	いじめの未然防止と早期発見に向けた取組	吉備国際大学 教授　藤井　和郎	遠隔 70 名
12/3	中堅教諭等資質向上研修⑥ １６年目研修②	キャリアパスポートの実際	筑波大学 教授　藤田　晃之	遠隔 34 名
5/18	校長研修①	地域や保護者への対応と連携	大阪大学 名誉教授 小野田正利	中止
7/6	校長研修②	「教員が生きる組織づくり」 ～学校改革を進める～	学校法人蒲公英学園 稚竹幼稚園 園長　西留　安雄	遠隔 56 名
5/25	副校長・教頭研修①	「リスクマネジメント」 ～学校の危機をいかに防ぐか～	高崎市教育委員会 教育長　飯野　眞幸	遠隔 64 名
8/31	副校長・教頭研修②	地域とともにある学校づくりにおける副校長・教頭の役割 ～コミュニティーとしてのリーダーシップ実践～	愛媛大学 教授　露口　健司	遠隔 64 名
5/20	授業づくり研修①	「学習する集団」を育む授業づくり	岡山大学 教授　高旗　浩志	遠隔 56 名

11/26	授業づくり研修②	子どもが主体で学び合う授業づくり	岡山大学 教授　高旗　浩志	遠隔 56名
6/29	教務主任研修	めざす子ども像実現に向けたカリキュラム・マネジメント	大阪教育大学 教授　田村　知子	遠隔 59名
10/15	道徳教育推進教師研修（全）	「自信」や「誇り」を育てる道徳科の授業づくり	畿央大学 教授　島　恒生	遠隔 56名
5/14	情報化推進リーダー研修（全）	１人１台端末を活用した学びの深化、転換に向けて	園田学園女子大学 教授　堀田　博史	遠隔 56 名
6/25	学校司書・司書教諭研修（全）	学校司書・司書教諭としての役割について	鳥取市教育委員会	遠隔 106名
7/26	講師研修①	児童生徒理解と教育実践への意欲づけ	鳥取市教育委員会	遠隔 44名
11/29 12/1 12/2	講師研修②	先輩教諭の授業づくりや学級経営に学ぶ	先輩教諭	遠隔 44名
7/1	特別支援教育主任研修①（全）	個別の指導計画を活用した指導・支援のための校内体制	舞鶴工業高等専門学校 特命教授　特別支援教育士 スーパーバイザー 後野　文雄	中止
6/8	特別支援学級担任研修①（全）	児童生徒の実態に応じた自立支援の実際	島根県立大学 教授　園山　繁樹	遠隔 53名
8/2	特別支援教育主任研修②（全） 特別支援学級担任研修②（全） 幼保小中連携研修	ＵＤＬでつなぐ支援の実際と幼保小中連携	文部科学省 特別支援教育調査官 加藤　典子	遠隔 126名
7/9	特別支援教育支援員研修	発達障害のある子どもの理解と支援の実際	宮城学院女子大学 教授　梅田　真理	遠隔 60名
6/22	人権教育主任研修①	県・市の人権教育の方針・施策の理解と各校における推進	鳥取県教育委員会 鳥取市教育委員会	遠隔 56名
6/1	教育相談コーディネーター研修①	教育相談コーディネーターの役割と組織的対応の取組	鳥取市教育委員会	遠隔 56名
4/22	児童生徒相談員研修①	子ども・保護者の支援につなげるスクリーニング会議、ケース会議	鳥取市教育委員会	13名
10/28	教育相談コーディネーター研修② 児童生徒相談員研修②	不登校児童の理解と援助	大阪教育大学 教授　水野　治久	遠隔 69名
11/25	外国語教育小中連携研修	言語活動の充実を目指す外国語教育の授業づくり	文部科学省 教科調査官 山田 誠志	遠隔 56名
6/21	外国語・外国語活動支援員研修 ワークショップ①	小学校外国語・外国語活動支援員の役割と、学級担任と連携した授業づくり	島根大学 教授　大谷　みどり	遠隔 23名
11/30	ＩＣＴを活用した授業づくり研修	授業場面や生活場面でのＩＣＴを効果的に活用した実践	鳥取市教育委員会	遠隔 56名
4/27 5/13	ＩＣＴ活用研修（基礎編） ＡＢ日程	授業における日常的なＩＣＴ活用	鳥取市教育委員会	オンデマンド
5/17 5/28	ＩＣＴ活用研修（応用編） ＡＢ日程	授業における効果的なＩＣＴ活用	鳥取市教育委員会	オンデマンド
7/13	教職員人権教育研修	鳥取市の学校人権教育の推進について	鳥取市教育委員会	遠隔 37名
10/5	学級づくり研修	子どもが自分のよさを発揮できる温かい学級づくり 自治的な集団を育成する話合い活動	鳥取市教育委員会	遠隔 50名
7/12	ワークショップ②	一人一人のニーズに応じた指導・支援	鳥取市教育委員会	遠隔 5名
7/30	全教職員研修	ＧＩＧＡスクールに向けた情報モラル教育からの転換 ～善き使い手になるための デジタルシティズンシップ教育の可能性～	鳥取県情報モラル エデュケーター 今度　珠美	遠隔 1380名

２　教師力サポート研修

（１）教師力サポート研修

① ねらい

研修と学校をつなぐために、学校に課題に即したワークショップ型の出前研修を提供し、教職員の指導力向上及び学校の活性化を支援する。

② 実績

	月日	派遣先	教科等	対象・人数
	内容			
1	６月　２日（水）	浜村小学校	学級経営	職員　　２０名
	○学級経営について			
2	６月　２日（水）	宝木小学校	国語科の学習について	職員　　１５名
	○国語科授業の工夫			
3	６月　３日（木）	用瀬小学校	ＩＣＴ活用研修	職員　　２０名
	○Google Workspace の活用法			
4	６月　９日（水）	津ノ井小学校	ＩＣＴ活用研修	職員　　２０名
	○Google Workspace の活用法			
5	６月２８日（月）	修立小学校	校内授業研究会 算数科	職員　　２５名
	○算数科授業の工夫			
6	６月３０日（水）	中ノ郷小学校	アセス活用	職員　　２５名
	○子どもたちのよりよい人間関係づくりに向けたアセス活用			
7	７月　２日（金）	遷喬小学校	校内授業研究会 算数科	職員　　１５名
	○算数科授業の工夫			
8	７月１２日（月）	世紀小学校	校内授業研究会 算数科	職員　　３０名
	○算数科授業の工夫			
9	７月１９日（月）	美保小学校	総合的な学習の時間について	職員　　４０名
	○ふるさと学習を踏まえた総合的な学習の時間のカリキュラムづくりについて			
10	７月２１日（水）	河原第一小学校	ＩＣＴ活用研修	部員　　２０名
	○Google Workspace の活用法			
11	８月　３日（火）	北中学校、遷喬小学校 城北小学校	ＩＣＴ活用研修	職員　　８５名
	○Google Workspace の活用法			
12	８月１８日（水）	美保小学校	授業づくり研修 算数科	職員　　４０名
	○学びの楽しさ・つながる喜びを実感できる授業づくり			
13	９月　８日（水）	遷喬小学校	校内授業研究会 算数科	職員　　１５名
	○算数科授業の工夫			
14	９月１５日（水）	中ノ郷中学校	アセス活用	部員　　３０名
	○子どもたちのよりよい人間関係づくりに向けたアセス活用			
15	１０月　６日（水）	国府東小学校	校内授業研究会 特別活動	職員　　１５名
	○学級活動（１）話し合い活動の取組にかかる支援の工夫			

16	１１月　８日（月）	中ノ郷中学校	校内研修 学力向上	職員　　３０名
	○学力向上の取組について			
17	１１月１８日（木）	湖東中学校	校内授業研究会 社会科	職員　　５０名
	○社会科授業の工夫			
18	１１月２２日（月）	浜坂小学校	校内授業研究会 算数科	職員　　４５名
	○算数科授業の工夫			
19	１１月２８日（日）	千代南中学校	教育フォーラム ＧＩＧＡスクール構想	職員　　５０名 保護者　３０名
	○鳥取市ＧＩＧＡスクール構想について			
20	１２月　１日（水）	岩倉小学校	校内授業研究会 特別活動	職員　　３５名
	○話し合い活動の取組にかかる支援の工夫			
21	１２月　２日（木）	南中学校	校内授業研究会 保健体育	職員　　６０名
	○保健体育科授業の工夫			
22	１２月　７日（火）	北中学校	校内授業研究会 特別の教科　道徳	職員　　４５名
	○特別の教科　道徳の指導について			
23	１２月　８日（水）	大正小学校	校内授業研究会 算数科	職員　　２０名
	○算数科授業の工夫			
24	１２月２２日（水）	福部未来学園	校内授業研究会 特別の教科等「 みらい」	職員　　３０名
	○特別の教科 みらい科のカリキュラムと評価について			

（２） 成果と課題（○：成果　▲：課題　◇：展望）

○学習指導だけでなくＩＣＴ活用やアセスなど、それぞれの学校で取り組んでいることやこれから取り組もうとしていることに対して、指導主事が各学校へ出かけ、指導支援を行った。それにより、各学校において実態に応じた具体的方策の考案に活かすことができた。

○教育フォーラムでの講演など、教職員だけでなく保護者に対しての研修も行った。地域と協働で学校教育を推進していく視点からも有意義な研修であった。

○研修企画係だけでなく、他係の指導主事も講師を担当することで、多くの研修を行うことができた。

令和４年度に向けて

◇研修と学校をつなぐ視点から、さらにサポート研修の充実を図る。研修内容によって派遣する講師を選定し、より研修効果をあげる。

◇ＧＩＧＡスクール構想の導入により、各学校から様々な要請が予想される。学校のニーズに応えられるよう、ＩＣＴを活用した授業づくり等について全国の最新の情報をこまめに収集していく必要がある。

３　中堅教諭等資質向上研修　企画選択研修の事例

（１）ねらい

①保育体験　：保育園・幼稚園・認定こども園における体験活動を通して、園児・児童生徒の実態や指導者の関わり方を把握し、その成果を教育活動に反映させる。

②地域貢献体験：地域での行事等の体験活動を通して、地域との連携や人とのかかわりの重要性を理解し、自校の教育活動に反映させる。

③指導助言体験：授業研究会で指導助言を担当することで、学習指導の専門的知識・技能の向上を図る。

（２）実績

対象者：１３名（９校）
※小学校１２名（１１校）、中学校６名（５校）、義務教育学校４名（３校）

①キャリア体験

体験先（学校・園）		人数	内　容	時　期
保育園	久松保育園 城北保育園 浜坂保育園 末恒保育園 美和保育園	８人	○園児との交流 ・朝の登園指導 ・自由遊び ・給食指導 ○園長、保育士との協議、情報交換	８月～１２月
幼稚園	第四幼稚園	３人		
中止		２人	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、体験先との協議の上、中止となった。	

＜中堅教諭の声＞
○保育体験では年長の園児と活動を行い、対話を通じて自分の思いや考えを伝える姿をみて、幼児教育が大事にしている「対話的な学び」について学ぶことができた。
○保育士の声かけや関わり方によって、子どもが遊びを通して学ぶ姿が大きく変わる様子を見て、発達段階にあった支援の仕方とその効果について考え直すきっかけとなった。
○保育士が、子どもから出た意見を大事にしながら主体的に取り組めるような環境づくりに努めていることを知り、子どもに寄り添って活動をサポートする大切さを再確認した。
○綿密な保育計画のもと保育に当たっている様子が参考になった。

※今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、体験活動実施が大変難しかった。半日体験活動を行うこともできず、ほとんどが短時間での実施となったため、保育士との協議時間が十分にとれなかった。そのため、保育体験を行いつつ、保育士との対話を通じて、お互いが子どもに接する際に大切にしていることを情報交換していた。

②地域貢献体験

体験・活動先（公民館・場所等）		人数	内　容	時　期
公民館活動	久松地区公民館 遷喬地区公民館 浜坂地区公民館	９人	・公民館行事への見学・参加（地域の学習講座・イベント） ・まちづくり協議会への参加 ・子ども食堂の取組について	７月～１月

公民館活動	美保南地区公民館 末恒地区公民館 下味野児童館	９人	※今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から地域の団体の活動や公民館活動の多くが縮小や中止となり、それに伴い打ち合わせ、意見交換を行う時間を十分にとれなかった。	７月～１月
地域行事	池田家墓所	２人	灯篭祭り参加	１２月
福祉施設	鳥取北デイサービスセンター	１人	福祉施設での体験活動	７月

＜中堅教諭の声＞
○地域の行事を大事にしてきた思いに触れ、ふるさとを思い親しみがもてる生徒の育成について改めて考えることができた。また、地域の方とふれあうことで、より地域と連携したキャリア教育となるよう見直すきっかけとなった。
○福祉施設での体験を通して、利用者の思いを知り、子どもたちへの指導に活かすことができた。また、自校の教育活動と結びつけるアイデアを管理職に報告することでカリキュラム・マネジメントに活かした。

※中堅教諭から、地域の団体や公民館活動、祭り等、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止や縮小となり、研修実施が困難であったという声を多く聞いた。しかし、１１月頃から公民館を中心に体験活動を受け入れてもらえるところもあり、昨年度に比べて中止となった受講者は少なかった。

③指導助言体験

指導助言対象	人数	内　　容	時　期
初任研	３人	初任研での指導助言、授業づくりへの協力	10 月～11 月
校内授業研	１０人	校内授業研究会での指導助言	７月～11 月

＜中堅教諭の声＞
○初任者の授業研究会に向けて、指導案作成や事前研究会に関わり、授業づくりの指導を行うことができた。初任者の話を聞きながら、研究の方向性をアドバイスすることを通して自分自身の授業づくりを見つめ直すよい機会となった
○日常的に初任者や講師と、意見交換や情報交換を行うことで、自身の知見や経験をもとにアドバイスをする経験を積むことができた。
○自主的にミニ研修会を開くことで校内のＯＪＴを推進し、初任者や講師などの若年層の教職員との連携強化につながった。

※今年度は GIGA スクール構想推進の中核としての役割を担う中堅教諭が多く感じた。学習指導や学級経営に ICT 活用を加えながら新たな挑戦を行っている様子が見られた。

（３）成果と課題（○：成果　▲：課題　◇：展望）

○中堅教諭は、昨年度同様新型コロナウイルス感染症対策のため、保育体験・地域貢献体験の実施が難しかったが、工夫して実施できた。体験活動の中で職員と協議・情報交換を行うことで、受講者自身の視野が広がり、自校の教育活動に活かそうというきっかけとなった。

令和４年度に向けて

◇今後も体験先の職員との意見交換を行い、地域での取組や幼児教育についてのより理解が深められるようにする。

◇今後も新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から体験活動が困難な状況も想定し、体験先の職員との意見交換を、ＩＣＴを活用して実施することも視野に入れる。

４　ＧＩＧＡスクール整備

（１）ねらい

社会のあらゆる場所・場面でＩＣＴは日常的に活用されており、学校においても、子どもたちが社会を生き抜く力を育み、子どもたちの可能性を広げるため、これからの学習を支えるＩＣＴ環境を積極的に整備していく必要がある。令和２年度に整備した児童生徒１人１台端末の活用に向け、その環境に耐え得る校内ネットワーク環境（無線ＬＡＮ）の整備を行った。

＜鳥取市ＧＩＧＡスクール構想の目的＞

○１人１台端末と校内ネットワークを一体的に整備することで、一人一人の教育的ニーズに対応した誰一人取り残すことのない学びや、資質・能力を一層確実に育成できる教育ＩＣＴ環境を実現する。

○ＩＣＴを効果的に活用した学びを推進し、１人１台端末を活用した授業改善をとおして、子ども一人一人の主体的・対話的で深い学びを実現する。

（２）実績

①　大型提示装置の整備

○電子黒板整備：市立小・中学校　１３校　９４台整備

②　ＧＩＧＡスクールサポーター

○１人１台端末運用を円滑に行うため、運用サポート、ヘルプデスクの設置等を実施

③　Ｗｉ－Ｆｉによるインターネット接続環境整備費助成金

○Ｗｉ－Ｆｉによるインターネット接続環境のない家庭に対する支援として、Ｗｉ－Ｆｉによるインターネット接続環境を整備した家庭に対し上限１万円を助成
令和３年度対象者：令和２年度に本助成金制度の対象にならなかった家庭
例）今年度小学１年生または今年度市外より転入してきた家庭など

④　南中学校、江山学園校舎改修に伴う校内通信ネットワーク整備

⑤　クラウド型セキュリティサービスの導入

○令和３年４月からはＧＩＧＡスクール構想による児童生徒用１人１台端末の授業等での利用が本格開始されることより、高速通信ネットワーク（ＳＩＮＥＴ）への接続を行っており、今後の端末利用の多様性を踏まえ、危険なプログラム等が含まれるＷｅｂサイトの閲覧を未然に防止するため、クラウド型セキュリティサービスを導入しセキュリティ対策を講じた。

⑥　モバイルルータ導入

○新型コロナウイルス感染症による臨時休業等緊急時の学習支援体制を早急に整備するために６０台導入

（３）成果と課題（○：成果　▲：課題　◇：展望）

○令和２年度整備した１人１台端末を積極的に活用できるようヘルプデスクを整備した。

○クラウド型セキュリティサービスを導入し、令和２年度に整備した児童生徒及び教員用タブレット端末による危険なプログラム等が含まれるＷｅｂサイトの閲覧を未然に防止するなどのセキュリティ対策を行った。

▲令和２年度に整備した１人１台端末の本格的活用が円滑に行えるよう、引き続き、運用支援及びＩＣＴ環境整備が必要である。

▲１人１台端末の導入に伴い、各学校に整備されている教育用コンピュータを含めたコンピュータ室の今後のあり方について、廃止も含めた協議が必要である。

▲教育格差が生まれないよう、児童生徒すべての家庭にＷｉ－Ｆｉ環境が整備されるようより効果的な対策が必要となる。

令和４年度に向けて

◇学校のネットワーク点検を実施し、接続環境が不十分な場合はその原因を調査する。

◇ヘルプデスクを、タブレット端末を含むＩＣＴ機器に関する各種相談の総合窓口とし、学校の負担軽減と支援を図る。

◇理科室、図工室等特別教室にアクセスポイントを設置する。

◇大型提示装置が、市立小・中・義務教育学校普通教室に１台ずつとなるよう平成３０年度から整備を進めており、令和４年度末で完了予定である。

◇教員用タブレット端末（ｉＰａｄ）について、授業を行う教員に１人１台配備となるよう追加整備する。

◇校舎の増築、教室増等に伴うネットワークの追加整備を行う。

◇体育館や校外学習に活用できるよう各小・中・義務教育学校にモバイルルータを１台ずつ配備する。

５　先輩に学ぶ　講師研修会

（１）ねらい

先輩教師の授業参観・講話を通して、児童生徒一人一人を伸ばす授業づくりや学級経営（保健教育と保健室経営）について学び、今後の実践に活かす。

（２）実績

開催日	対象	会場	方法	授業者	内容	参加者
11／29	中(小)学校講師	会場校方式	・公開授業動画配信 ・Ｗｅｂ会議システムによる遠隔研修	西中学校 中林真彦　教諭	・動画視聴及び講話 ２年特別の教科　道徳 主題名：規則の意義とは （Ｃ　遵法精神、公徳心） 教材名：「二通の手紙」	13名
12／2	養護助教諭	中ノ郷小学校	・集合研修	中ノ郷小学校 山根絵莉子 養護教諭	・実践発表・講話 「保健教育及び保健室経営について」 ・危機対応に関する演習	7名
12／3	小・義務教育学校講師	会場校方式	・公開授業動画配信 ・Ｗｅｂ会議システムによる遠隔研修	城北小学校 奥田真行 教諭	・公開授業及び講話 ３年算数 単元名：「わり算」	28名

（３）受講者の感想（一部抜粋）

○中（小）学校講師

・道徳の授業展開（テーマの導入や中心発問など）と授業後の振り返り、板書の保存などとても参考になった。また、学級づくりとして、係や班の仕事を個別でするのではなく、仕事に対しての責任感や自覚をもたせ、集団生活の力を身に付けさせるために、全体への指示を行うことの重要性について学んだ。

○養護助教諭

・保健室経営計画をどのように活用したらいいのか、保健教育にどのように参加したらいいのかを悩んでいた。今回の研修で職員会で提案することや、他の先生方に実態を伝えるためにも数値化することなど、様々な工夫を実践してみたいと思った。

また、児童が自分で怪我の説明をし、手当てをできるようにその手助けをするために養護教諭がどう関わるかなども教えていただいたので実践していきたい。

○小・義務教育学校講師

・授業の映像を見ながら解説を聞いたので、授業の組み立ての至るところに教師の意図が散りばめられていることがよくわかった。自分の意図するような展開を明確にして授業をつくり上げていくことの大切さを改めて感じた。

　また、学級経営について児童と関わりを持つことと授業に引きつけることの２点を紹介してもらった。授業以外の時間に児童との関わりを意識的にもつようにする、自分自身がわくわくするような授業を目指して教材研究を行うなど、実践できるところから取り組んでいきたい。

（４） 成果と課題（○：成果　▲：課題）

○新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、集合しての授業参観の代わりに校種別に授業動画を配信し、事前に視聴するようにした。研修当日は、授業動画に授業者が解説を加えながら視聴できる形態にした。受講者にとっては、発問のねらいやその意図を、動画を止めながら視聴したことで、多くの学びを得ることができた。また、授業づくりを通した学級経営の大切さも学び、今後の大きな参考となった。研修全体をとおして教師としての心構えや授業に挑戦していく熱意を改めて持つことができたように思う。

○養護助教諭は、受講者が少ないので、新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと講じて集合研修を行った。先輩養護教諭から直接話を聞いたり、他の養護助教諭と顔を合わせながら悩みを共有したり、アドバイスをもらったりした。受講者の多くは、小規模校の一人職の養護助教諭が多く、対面での集合研修の実施により、体験に基づいた深い学びとなった。

○新型コロナウイルス感染症の影響もあって、集合での研修の実施が難しくなってきている。そのため、養護助教諭同士でもお互いに会う研修機会等が減少する中、横のつながりをつくる貴重な機会となった。同じように他の講師研修会でも、講師同士の横のつながりを大切にしたいという思いから、会場校方式でのＷｅｂ会議システムによる遠隔研修を行った。会場校方式を導入することで、少人数ではあるが実際に顔を合わせて協議ができ、他校の講師の実践も励みになったようである。

▲新型コロナウイルス感染症の状況により、受講形態等を含め対応が難しい。集合での研修が望ましいが、Ｗｅｂ会議による遠隔研修での実施の場合にも、集合研修での実際の授業の様子を体験的に感じたり、受講者の横のつながりをつくれたりの利点を活かした研修の充実が必要である。

▲初任者訪問の際、新規採用養護教諭からも保健教育、保健室経営の他に危機対応に関する困り感などの声が聞かれた。危機対応に関する演習を実施したが、学校現場でどう動いていくのかを明確に説明できる養護助教諭は多くはなかった。今後も危機対応に関する演習の時間を確保する必要がある。

（５） 来年度に向けての展望

◇Ｗｅｂ会議システムによる遠隔研修上で、受講者同士の双方向による意見交換の場の設定及びその充実が必要である。

◇養護助教諭研修は授業動画視聴が必要ないこともあり、研修開始時刻を３０分遅くしていた。今後は、危機対応の演習等を入れ、内容をさらに充実させて実施できるように、他の講師研修と同じ時間帯で実施したい。

【児童生徒支援係】

６　令和３年度　鳥取市の不登校対策

＜目標＞

多様性を受け止め、共に学び育つ集団づくり・組織づくり
～子どもたちの安全・安心を支える学校・家庭・地域をめざして～

＜取組の柱＞

不登校が生じないような学校づくり ＜未然防止＞

○豊かなかかわりによる「自己有用感」の育成

【学校】
・特別活動を軸にした児童生徒の自発的・自治的な活動の推進
・個人間の多様性を受け止める学習指導と協働的な授業づくりの推進

【市教委】
・「笑顔あふれる自治力育成研究事業」
・鳥取市 Smile（いじめ防止）プロジェクト
・学力向上推進事業

【地域社会】
・地域での居場所づくり

○全児童生徒を対象にした実態把握

【学校】
・スクリーニングシートを活用したリスク把握と支援策の検討、事後の評価
・児童生徒アンケートによる学級集団及び個人の実態把握と課題に応じた指導・支援
・学力テスト及び諸検査の結果に基づく学習支援

【市教委】
・教育相談コーディネーター（CO教員）への支援及び研修
・中学校区及び校内研修への支援

【地域社会】
・地域からの情報収集

不登校やその傾向にある児童生徒への効果的な支援

○個々の児童生徒の状況に応じた支援

【学校】
・スクリーニングシート・アセスメントシートを活用した組織的・計画的な支援

【市教委】
・スクールソーシャルワーカーの巡回訪問
・不登校支援に係るアドバイザー派遣
・関係諸機関との連携
・スクールカウンセラー配置事業（県教委）の活用

【地域社会】
・地域人材による見守り、家庭支援

○教育機会の確保

【学校】
・学級以外の学びの場（相談室、サポート教室等）の活用
・ICTを活用した個別学習支援

【市教委】
・サポートルーム（すなはま・レインボー・かわはら）の運営
・児童生徒相談員の配置
・自宅学習支援事業
・フリースクール通級児童生徒への支援

【地域社会】
・フリースクール等との連携

7　令和３年度　鳥取市のいじめ防止対策

＜目標＞

いじめを許さない、困難なことも集団の力で解決していける仲間づくり
～子どもたちの安全・安心を支える学校・家庭・地域をめざして～

＜取組の柱＞

いじめが生じないような学校づくり ＜未然防止＞

○児童生徒の自発的・自治的な活動による「絆づくり」の推進

【学校】
・特別活動を軸にした児童生徒の自発的・自治的な活動の推進
・道徳や学級活動を中心とした生命や人権を大切にする学習の充実

【市教委】
・鳥取市 Smile（いじめ防止）プロジェクト（小・中学生 Smile サミットの開催）
・人権教育推進事業
・「笑顔あふれる自治力育成研究事業」
・全国いじめ問題子供サミットへの参加

【地域社会】
・地域での居場所づくり

○全児童生徒を対象にした実態把握と教育相談

【学校】
・児童生徒アンケートによる学級集団及び個人の実態把握と課題に応じた指導・支援
・スクリーニングシートを活用したリスク把握と支援策の検討、事後の評価

【市教委】
・人権教育主任研修の実施
・教育相談コーディネーター（CO教員）研修の実施
・中学校区及び校内研修への支援

【地域社会】
・地域・家庭からの情報提供

いじめ解消に向けた取組 ＜早期発見・早期対応＞

○個々の児童生徒の状況に応じた指導・支援

【学校】
・児童生徒アンケート等をもとにした組織的・計画的な支援
・いじめ事案の情報共有と引き継ぎの徹底

【市教委】
・専門諸機関との連携
・スクールカウンセラー配置事業（県教委）の活用
・スクールソーシャルワーカーの巡回訪問

【地域社会】
・専門機関による支援
・地域人材による見守り

○組織対応の充実

【学校】
・学校いじめ防止基本方針の内容の修正及び周知
・校内いじめ防止対策委員会の積極的開催
・校内研修の充実

【市教委】
・小・中学校校長会、教頭会、特別活動部会、生徒指導部会との連携と情報伝達
・学校への指導助言
・県教育委員会との連携

【地域社会】
・地域・家庭での研修
・学校運営協議会での情報共有及び意見交換

８　サポートルーム「すなはま」「レインボー」「かわはら」の運営

（１）入級状況

① 入級児童生徒数

計１０名（小３名、中６名、義務教育学校１名）

		小学校						中学校			計
		１年	２年	３年	４年	５年	６年	１年	２年	３年	
		義務教育１年	義務教育２年	義務教育３年	義務教育４年	義務教育５年	義務教育６年	義務教育７年	義務教育８年	義務教育９年	
すなはま	男	0	0	0	0	2	0	0	0	1	3
	女	0	0	0	0	0	1	3	1	1	6
レインボー	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
かわはら	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		0	0	0	0	2	1	3	1	3	10

② 月別入級児童生徒数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入級児童生徒数	0	0	4	0	1	1	1	1	1	1	0	0	10

③ 入級児童生徒の活用状況

活用状況		人数	
		小学校	中学校
		義務教育1～6年	義務教育7～9年
学校復帰	教室	0	0
	相談室	0	0
学校と併用	教室	0	1
	相談室	1	5
	放課後登校等	1	1
サポートルームのみ		0	0
その他		1	0
合計		3	7

サポートルームの活用状況		人数	
		小学校	中学校
		義務教育1～6年	義務教育7～9年
週に３～５回程度	午前中心	1	1
	午後中心	1	0
	１日	0	5
週に１～２回程度	午前中心	1	0
	午後中心	0	0
	１日	0	1
学校復帰　他		0	0
合計		3	7

※サポートルーム「レインボー」は火・木・金曜日の午前中のみ、サポートルーム「かわはら」は毎週金曜日の午前中のみ開室

④　令和２年度（昨年度）入級児童生徒の状況

活用状況		人数	
		小学校	中学校
		義務教育1～6年	義務教育7～9年
高校進学			2
学校	教室	4	0
	相談室	1	0
学校と併用	教室	2	1
	相談室	1	3
	放課後登校等	2	1
サポートルームのみ		0	0
自宅		0	0
その他		2	0
合計		12	7

昨年度入級生１９名のうち、今年度学校復帰（教室または相談室）しているのは５名、高等学校進学は２名である。

残り１２名のうち１０名は学校との併用を行っている。昨年度に引き続きサポートルームを利用している児童生徒は８名である。

（２）活　動

サポートルーム「すなはま」 一週間の予定表

		月	火	水	木	金
午前	9:30～9:45	来室・読書・今日の学習予定を決める				
	9:45～10:00	朝の会・ラジオ体操				
	10:00～10:50 ①	自主学習	ふれあい活動	自主学習		
	10:50～11:00	休けい		休けい		
	11:00～11:50 ②	自主学習		自主学習		11:00～11:20 自主学習 11:25～11:35 そうじ 11:40～11:50 読み聞かせ
	11:50～12:00	すなくまタイム		すなくまタイム		ふりかえり
午後	12:00～13:00	昼食（おべんとう）・休けい				12:00 帰宅
	13:00～14:10	学び合い活動	ふれあい活動	学び合い活動	スポーツ（体育館）	
	14:10～14:30	自由活動・ふりかえり・帰宅				

＊金曜日の午後はチャレンジ登校（個別に設定）　　＊毎月最終金曜日は閉室

① 学　習

・午前中は自分のめあてにそって学習計画を立て、学習を進めている。
・学習内容は、個別に教育指導員と相談して学習計画を立てた。必要に応じて予定をホワイトボードに書くなどし、見通しがもてるように支援した。学習の定着が十分に図られていない児童生徒に対しては、それぞれに合った教材の提案も行った。
・１０月以降、週に１回程度、児童生徒の学習支援を行うために学習支援員（数学・英語）を活用した。
・パーテーションや部屋の配置を工夫しながら、通級生が集中して学習に取り組むことができる環境づくりに努めた。

② 学び合い活動

・生活経験を広げるとともに、人との関わり方や社会性を培うことをねらい、月・水曜日の午後に学び合い活動の時間を設定した。
・調理活動や制作活動、すなはま農園作業等、年間を通して計画的に目的意識をもって取り組むことができた。
・保育園やデイサービスの方との交流に向けて、学習したことを生かしながら協力して準備を行うなど、児童生徒が関わり合う場面を設定した。
・９月の毎週水曜日の午後、鳥取県立聾学校手話普及コーディネーターと手話普及支援員を招き、手話体験活動を４回行った。

③ スポーツ

・体力向上と心身のリフレッシュをねらい、木曜日の午後にスポーツの時間を設定した。
・スポーツを通して人と触れ合う楽しさを感じることができた。
・体力づくりプログラムを実施する時間を設定し、皆でドリブルリレーや連続パスの記録を測ったり、バドミントン、卓球、バスケットボール等を中心に運動を行ったりした。

④ すなくまタイム

・前期は教育指導員やセンターの職員の話を聞くことを通して、視野を広げたり自分を振り返ったりするきっかけづくりとした。後期は入級児童生徒が順番に自分の特技を披露したり、興味のあることを紹介したりして、自分のよさの発見や発表することへの自信につなげた。

⑤ ふれあい活動

・「勤労生産的活動」、「創造・文化的活動」、「自然体験活動」、「社会体験活動」の４つの領域に分類し、年間計画を立てて実施した。
・地域の施設や人材を有効活用し、地域のよさを感じたり、人との関わり方や社会性を培ったりすることをねらい、原則毎週火曜日に１日または半日を単位として設定した。

【令和３年度　ふれあい活動一覧表】

期日	内　容	場　所	期日	内　容	場　所
5/18	調理実習①	総合教育センター	11/2	交流活動（福部保育園）	鳥取市福部町
5/25	久松公園・久松山登山	鳥取市東町	11/9	鳥取大学ものづくり講座	鳥取市湖山町
6/1	真教寺公園見学	鳥取市戎町	11/16	やまびこ館、観音院見学	鳥取市上町
6/8	調理実習②	総合教育センター	11/25	すなはま参観・保護者研修会	総合教育センター
6/15	ニュースポーツ	総合教育センター	12/8	佐治アストロパーク見学	鳥取市佐治町
6/22	リファーレンいなば見学、 青島散策	鳥取市伏野 鳥取市高住	12/14	調理実習③	総合教育センター
7/6	警察学校、 新聞製作センター見学	鳥取市伏野 鳥取市富安	12/22	県立博物館アート出前	総合教育センター
7/13	市議会議場見学、玄忠寺	鳥取市幸町 鳥取市新品治	1/11	書道教室・昔遊び	総合教育センター
9/7	国府の史跡巡りと雨滝	鳥取市国府町	1/18	鳥取大学リモート講座	総合教育センター
9/14	ポニー牧場乗馬体験	鳥取市越路	1/25	折り紙教室（共同作品制作）	総合教育センター
9/22	県民文化会館バックヤード 県立図書館見学	鳥取市尚徳町	2/8	国際交流	総合教育センター
10/5	交流活動（なないろデイサービス）	鳥取市二階町	2/15	わらべ館見学	鳥取市西町
10/13	白兎グラウンドゴルフ	鳥取市白兎	2/22	室内遊びと高砂や見学	鳥取市大工町
10/19	砂の美術館、古砂丘散策	鳥取市福部町	計２７回		

調理実習

交流活動（福部保育園）

やまびこ館・観音院見学

（３）保護者・在籍校・関係機関との連携

① 教育相談・情報共有

・保護者との個別懇談　→　年２回〈入級時、年度末〉
・学校との教育相談　　→　年１回〈入級時〉
・学校関係者、保護者の要望や必要に応じて、上記以外にも随時教育相談を実施した。
・「すなはまだより」（学校用・保護者用）を配付し、来月の活動について見通しがもてるようにした。
・「来室状況報告」（学校用・保護者用）を送付し、来所回数や活動の様子について連絡した。

② 支援会議

・在籍校との連絡を密にし、場合によっては専門機関と情報共有をしながら、児童生徒の支援について連携を図った。

③ 参観日　　令和３年１１月２５日（木）午前の部 10:00～12:00　午後の部 12:50～13:30

・自由参観とし、午前中は普段の個に応じた学習、午後は「学びの発表会」を公開した。「学びの発表会」では、これまで学習してきた手話や読み聞かせ、ハンドベル等を保護者向けに発表し、児童生徒が主体となり進行も行った。
・４月から１１月までのサポートルームでの様子をまとめたスライドショーを児童生徒と保護者で鑑賞した。

④ 保護者研修会　令和３年１１月２５日（木）13:30～14:30

『すなはまと学校現場から見えたもの』
講師　　元すなはま保護者

・今回の保護者研修会はサポートルーム「すなはま」「レインボー」に入級または体験している児童生徒の保護者を対象に実施した。
・講師の先生も交えて保護者、指導員とで講演会後に実施した茶話会では、短時間ではあったものの講演の内容をもとに普段感じていることや子育ての悩みを共有するとともに、子どもの成長を認めるよい機会になった。

⑤ 個人ファイルの作成・活用

１週間単位で目標を設定し、日々の活動を記録した。児童生徒の成長を確認するとともに、学校や家庭からの情報についても記録に残すようにして、支援に役立てた。記録をデータ化することによって教育指導員だけではなく、指導主事等関係する様々な職員が日々の様子を確認しやすくなり、個々の状況把握や声かけ、学校との情報共有等に活かすことができた。児童生徒の振り返りについても、週末に所内関係者で回覧し、情報共有を図った。

（４）成果と課題（○：成果　▲：課題　◇：展望）

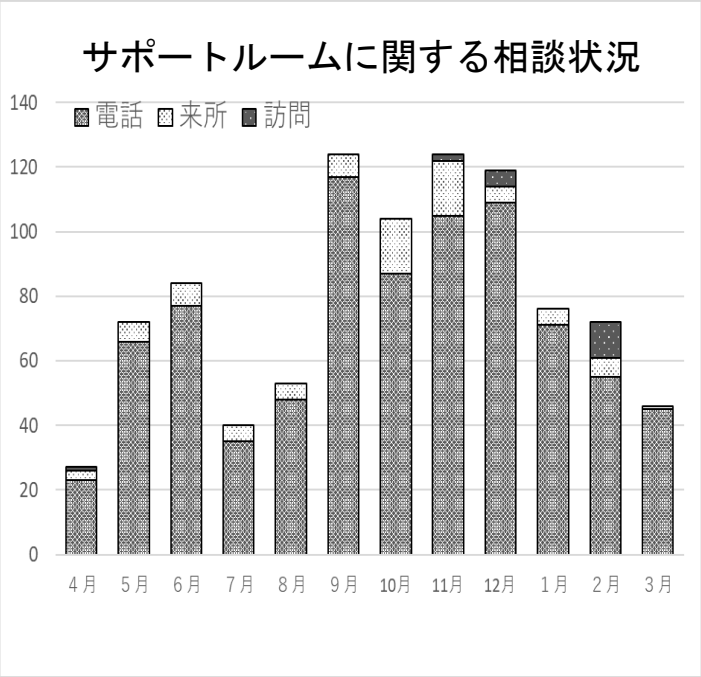
○児童生徒の実態や思いに寄り添いながら支援することで、年間を通して安心して通級する児童生徒が多かった。
○学校と情報共有しながら支援策を確認・修正等することで、学校とサポートルームがそれぞれタイムリーで効果的な支援を行うことができた。また、入級・体験開始時と比較すると、段階的に学校復帰している児童生徒も増えている。
▲個別対応のニーズが増加しているが、年々、入級や体験生が増加していることから、一人ひとりに十分な支援が行き届きにくくなっている部分もある。長期休業中は閉室しているため、その間に生活習慣が乱れる児童生徒がおり、学校や家庭と連携をより密にすることが必要である。
▲より多くの児童生徒が利用しやすくなるよう、「レインボー」に加え、本年度「かわはら」も開設したが、見学後、体験に至らない理由の一つとして保護者の送迎が課題として挙げられる。

令和４年度に向けて
◇在籍校等との連携をより密にし、一人一人のニーズや実態に即した支援や指導を行う。
◇進路や学習に対して不安を持つ児童生徒、保護者が多いことからＩＣＴの活用等、学習支援の充実を図る。
◇多様な教育機会の確保の一つとして、サポートルームの周知を図り、児童生徒の実態に即した利用を学校や保護者に働きかける。

９　サポートルーム「すなはま」「レインボー」「かわはら」の相談状況

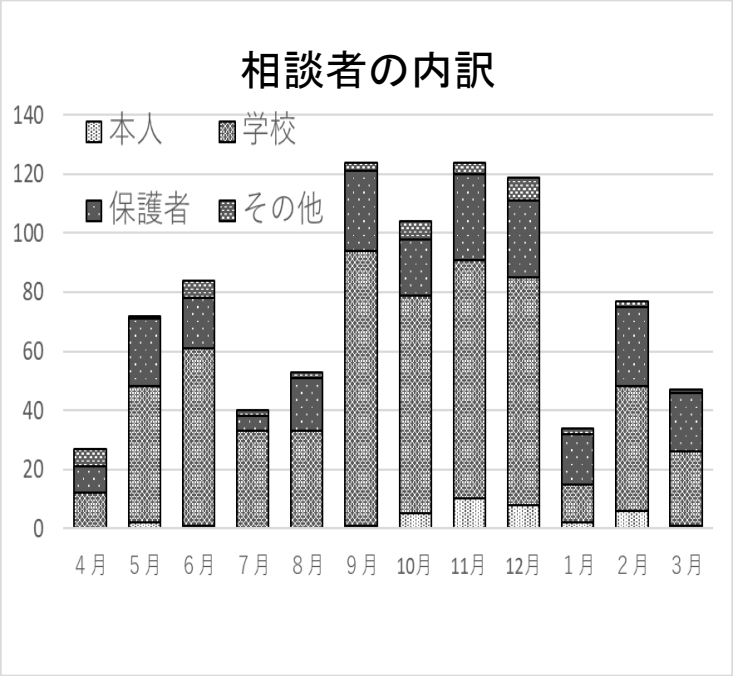
（１）サポートルームに関する相談状況（件数）

	電話	来所	訪問	全体
４月	23	3	1	27
５月	66	6	0	72
６月	77	7	0	84
７月	35	5	0	40
８月	48	5	0	53
９月	117	7	0	124
10月	87	17	0	104
11月	105	17	2	124
12月	109	5	5	119
１月	71	5	0	76
２月	55	6	11	72
３月	45	1	0	46
合計	838	84	19	941



（２）相談者の内訳（回数）

	本人	学校	保護者	その他	合計
4月	0	12	9	6	27
5月	2	46	23	1	72
6月	1	60	17	6	84
7月	0	33	5	2	40
8月	0	33	18	2	53
9月	1	93	27	3	124
10月	5	74	19	6	104
11月	10	81	29	4	124
12月	8	77	26	8	119
1月	2	13	17	2	34
2月	6	42	27	2	77
3月	1	25	20	1	47
合計	36	589	237	43	905



・電話相談および来所相談からサポートルームを知り、見学につながったケースがあった。
・サポートルームへの見学、体験については、学校と該当児童生徒及び保護者とで協議した上で学校から相談を受ける形にした。学校とサポートルームとが情報共有することを大切にした。

（３）見学・体験・入級児童生徒の状況（人）

		４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
小１	義務教育1年	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0
小２	義務教育2年	0	2	1	1	1	3	2	3	2	3	2	2
小３	義務教育3年	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
小４	義務教育4年	0	0	1	1	1	2	3	5	5	3	3	3
小５	義務教育5年	0	2	3	3	2	4	4	4	4	4	4	4
小６	義務教育6年	0	0	2	2	3	3	2	2	3	3	3	3
中１	義務教育7年	2	2	2	2	2	3	3	3	5	6	7	6
中２	義務教育8年	0	0	0	1	0	3	2	3	3	3	3	2
中３	義務教育9年	1	2	3	5	4	4	4	4	4	4	3	3
合計		3	8	13	15	13	23	21	24	26	28	25	23

※見学・体験・入級児童生徒数は「すなはま」「レインボー」「かわはら」の両方を含む。

（４）見学・体験・入級児童生徒の延べ人数（人）

		４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計
小１	義務教育1年	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	4
小２	義務教育2年	0	3	8	7	3	14	15	12	13	13	12	9	109
小３	義務教育3年	0	0	1	0	0	7	0	0	0	0	0	0	8
小４	義務教育4年	0	0	9	3	1	8	9	11	9	6	6	5	67
小５	義務教育5年	0	17	28	10	4	20	20	18	29	16	19	16	197
小６	義務教育6年	0	0	8	4	4	15	17	24	22	31	19	16	160
中１	義務教育7年	7	25	27	13	4	30	38	39	48	46	53	39	369
中２	義務教育8年	0	0	0	1	2	3	2	14	18	15	20	21	96
中３	義務教育9年	7	18	26	18	11	38	49	46	39	31	38	14	335
合計		14	63	107	56	29	135	152	164	178	160	167	120	1345

開室予定（日）	5	17	22	10	4	19	18	19	17	16	17	17	181
１日平均（人）	2.80	3.71	4.86	5.60	7.25	7.11	8.44	8.63	10.47	10.00	9.82	7.06	7.43

※見学・体験・入級児童生徒数は「すなはま」「レインボー」「かわはら」を含む。

（５）成果と課題（〇：成果　▲：課題）

〇今年度の入級児童生徒については１０人中７名が学校にも通い、教室や相談室で活動することができた。個々の目標設定や支援のあり方については、学校、本人・保護者とサポートルームとで適宜相談し、通級の頻度や時間、学校へ行く回数を増やしてきている児童生徒もいた。

▲サポートルームへ入級するまでの一定期間は、児童生徒の目標や支援の検討等のため、体験として位置づけている。今年度は、見学や体験した児童生徒のうち約半数が体験を継続しているが、入級することがプレッシャーになる場合があることや、学校に軸足を置いた生活を意識づけるために入級しない例もあり、例年に比較して入級した児童生徒は少なかった。

１０　児童生徒交流体験事業

（１）事業概要

＜姫路市・鳥取市中学生合宿交歓会＞

① 目的

姉妹都市である姫路市と鳥取市の中学生がオンラインでの交流を行うことにより、お互いの市についての理解を深めるとともに、親睦を図りながら交流の輪を広げることで、姉妹都市の絆を深めることを目的とする。

② 実績

○日時

令和３年８月４日（水）　午後１時から３時

○会場

鳥取市立河原中学校　多目的ホール　他

○参加者

・生　徒　３４名（姫路市１７名　鳥取市１７名）
　※鳥取市の参加者は、各中・義務教育学校後期課程から１名
・指導者　１３名（姫路市８名　鳥取市５名）　　◎参加者合計　４７名

○交流方法・内容

・Google　Meet を活用したオンラインでの交流
・両市の概要、産業・食、方言等について紹介、生徒会活動内容の情報交換　等

＜中山間地域ふるさと体験活動支援事業＞

① 目的

鳥取市内の中山間地域（農山村）で生活体験活動を実施することにより、豊かな人間性や社会性を育むとともに、ふるさとの自然や文化の素晴らしさや人の温かさにふれることにより、児童にふるさとのよさを実感させる。

② 活動の種類

○佐治町での農村暮らし体験を主とした宿泊体験学習及び文化や伝統についての体験活動
○鳥取市中山間地域に該当し、上記に類する活動

③ 実績

○市内小・義務教育学校前期課程１２校が実施
○主な体験活動
　魚のつかみ取り体験、佐治谷話、星空観察体験、枝打ち・間伐体験、農家民泊体験　等

＜郡山市・鳥取市小学生交流事業＞

① 目的

・姉妹都市である郡山市と鳥取市の小学生が交流を行うことで、両市の小学生相互の親睦を図る。
・交流をとおして、他の都市や学校を知り、自分たちの郷土や学校を見直すことで、ふるさとに誇りをもつ。
・東日本大震災被災地郡山市に暮らす小学生と交流することで、郡山市応援プロジェクトでつないだ絆の太さを実感するとともに、ふるさと日本の復興に向けての思いや願いを一層育む。

② 実績

○美保小学校

交流校：郡山市立大槻小学校
日　時：令和３年１０月２８日（木）　午前１０時３０分から１１時１５分
内　容：・鳥取市と美保小学校の紹介をバラエティー番組風の VTR にまとめて発表
（鳥取市の観光地、名産、美保小学校の紹介　等）
・鳥取市の観光、名産、郡山市とのつながり、美保小学校に関するクイズを出題

○明徳小学校

交流校：郡山市立永盛小学校
日　時：令和３年１１月１７日（水）　午前１０時３５分から１１時３５分
内　容：・鳥取市と明徳小学校についてスライドを見せながら発表
・お互いに感謝の気持ちを込めたメッセージの伝え合い

○若葉台小学校

交流校：郡山市立安積第三小学校
日　時：令和３年１１月３０日（火）　午前１０時３０分から正午
内　容：・若葉台小学校やふるさと鳥取市の紹介
・質問タイムや感想を伝え合う活動

＜地域で学ぶ職場体験活動（「ワクワクとっとり」）事業＞

① 目的

地域で学ぶ職場体験活動事業により、中学校区及び義務教育学校区を基盤とした地域社会の中で生徒の主体性を尊重した様々な社会体験活動を実施することによって、地域社会の自立した構成員として共に生きる心や感謝の心を育む。あわせて、望ましい勤労観や職業観を身に付けて、自己の将来に夢や希望を抱き、その実現を目指そうとする意欲や態度を育成する。

② 実績

○対象者

鳥取市立中学校及び義務教育学校後期課程１７校の特定学年の生徒全員

○実施内容

職場体験活動：　３校
代替活動　　：１４校

（２）成果と課題（○：成果　▲：課題）

○参加した小学生からは、「鳥取市について自分で調べていくうちに、たくさんの魅力に気づくことができ、鳥取のことが好きになった」という感想があった。中学生からは、「両市のことを詳しく知ることができただけでなく、相手の姫路市の中学生とはもちろん、鳥取市内の中学生とも交流することを通して、自分が成長できた」という内容の感想があった。
このように交流体験活動は、ふるさとへの理解や愛着、人との絆を深めるよい機会となっている。

○コロナ禍で対面での交流ができない中、オンラインを活用したことで事業を実施することができた。

○職場体験学習について本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に鑑み、教育課程上での位置付けと、３年間を見通した系統的なキャリア教育の取組となるように留意した上で、代替活動の実施も可としたことで、事業を実施することができた。

▲交流事業においては、今後もオンラインでの交流の可能性が考えられる。今後の姉妹都市との交流について、内容等を含め工夫していく必要がある。

令和３年度　所報第１５号

令和４年３月発行
発行所　　鳥取市総合教育センター
　　〒680-0053　鳥取市寺町１５０番地
ＴＥＬ　　（０８５７）３６－６０６０
ＦＡＸ　　（０８５７）２６－３８７８
Ｅ-mail　kyo-center@city.tottori.lg.jp
ＵＲＬ　　https://www.city.tottori.lg.jp/www/contents/1190788717391

鳥取市総合教育センター
〒680－0053 鳥取市寺町150番地